

平成29年度「ながさき水産業大賞」受賞者の概要

1. 長崎県知事賞

部門名	受賞者名	概要
収益性の高い魅力ある経営体部門 (沿岸漁業の部)	カワウエ カズイ 川上 一位 (五島市)	タチウオ曳縄の効果的釣獲のため独自の漁具改良や、クロムツの漁場開拓による同魚種の一本釣漁業確立、さらに高鮮度処理による魚価向上に取り組み、地域でも有数の安定した高い水揚を確保。 タチウオ曳縄の漁場利用のルール化や他地区との連絡調整、同業者や後進に対する漁労技術の伝承に尽力するなど地域漁業の発展に貢献。
収益性の高い魅力ある経営体部門 (養殖業の部)	ユウゲンガイシャ マツナガスイサン 有限会社松永水産 (平戸市)	ヒラメ、トラフグ陸上養殖に加え、県内で初めて海水ウナギ養殖を先駆的に導入し、緻密なデータ管理により養殖魚の差別化を図ることにより生産販売実績を伸ばし、安定経営を確保。 加工品の製造など多角経営に取り組み、地域で雇用を生み出すとともに、地元産品を使った製品の開発など地域活性化に貢献。
収益性の高い魅力ある経営体部門 (水産加工・流通の部)	カフシキガイシャ ツダスイサン 株式会社津田水産 (佐世保市)	遠赤外線乾燥など独自製法の干物作りに取り組み、大衆向けのヒット商品や厳選された釣り物を使った高級干物商品を開発するなどして売上を伸長。 「東浜水産加工グループ」をけん引、グループとともに加工振興祭などの祭事開催に尽力、また独自に子供向けの干物食べ方教室を開催するなど、干物食文化の普及・継承と地域活性化にも貢献。
浜・地域の魅力を活かした漁村の活性化部門	カツモトチョウギョウキョウキョウドウクミアイ 勝本町漁業協同組合 オキセンドウ 沖船頭 (壱岐市)	過去に海難を受け操業の安全と相互扶助を目的に明治39年(111年前)に設立、海難防止のための日和見や沖止めによる事故・遭難防止、事故に備えた連絡指示系統や救助体制を整備して勝本漁民の操業の安全に貢献、無事故を実現。 地元祭事や儀式等の伝統文化を積極的に継承し、漁村の活性化や後継者育成に貢献。

2. 長崎県漁業協同組合連合会長賞

部門名	受賞者名	概要
収益性の高い魅力ある経営体部門 (沿岸漁業の部)	ナカニフ イサオ 中庭 功 (対馬市)	対馬定置網協議会において、同業者との漁業技術の向上や研さんを図り水揚を伸ばすなど安定経営を確保。 漁業就業希望者を研修生として自ら受け入れ、対馬市新規就業者就業推進協議会では会長として地域での研修生の受入に尽力し、対馬の新規漁業就業者の確保に貢献。
収益性の高い魅力ある経営体部門 (養殖業の部)	カフシキガイシャ ホウセイスイサン 株式会社宝生水産 (新上五島町)	ブリ稚魚を安定的に確保し周年出荷体制を確立したことに加え、「ピフ茶五島ぶり」の開発や輸出、マグロ養殖にも取り組み販売量を伸長。 海外市場を視野にEU・HACCPを取得、また地区で最も多くの従業員を雇うなど地域の雇用創出に貢献。
収益性の高い魅力ある経営体部門 (水産加工・流通の部)	カフシキガイシャ 株式会社しまおう (五島市)	本県、五島産の原料を積極的に使用したねり製品を製造しており、新製品やデザインを開発し幅広い客層への需要喚起、市外での販路開拓などにより売上を伸長。 学校給食への食材提供や、加工場への小中学生の見学受入など食育にも貢献。
浜・地域の魅力を活かした漁村の活性化部門	エ ウラチク モバ タイセン 江の浦地区藻場を大切に する会 (諫早市)	自らが人工採苗した種を用いた藻場回復、食害生物の駆除と防除、栄養塩の供給、定期的なモニタリングまで独自性が高い藻場保全活動を行って成果を発現。 地元の住民や小学生、地元を利用しているサーファーと共同した浜掃除の実施などを通じて環境問題への意識向上に貢献。

3. 特別賞(ながさき水産業大賞運営委員長賞)

部門名	受賞者名	概要
収益性の高い魅力ある経営体部門 (水産加工・流通の部)	ユウゲンガイシャ マルトフ スイサン 有限会社丸徳水産 (対馬市)	採介藻漁業、短期蓄養、干物等の水産加工、市内スーパーでの小売、地元水産物を提供する飲食店経営など6次産業化により売上を伸長。 多角経営による地域の雇用創出に加え、水産教室や料理教室における講師活動を通じて魚食普及や水産物の消費拡大に貢献。
浜・地域の魅力を活かした漁村の活性化部門	キタクジュウクシマ タイキ カツドウ 北九十九島地域活動 ソシキ 組織 (佐世保市)	アマモ場、ホンダワラ類藻場の地勢に応じて、食害生物の駆除や海藻種苗の投入など磯焼け対策を実施して、藻場回復を実現。 アマモ移植や播種を地元小学校と共同で行い、地域全体の磯焼けに対する意識向上に貢献。